

氏名： 佐々木 泰子 (SASAKI Yasuko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 文学修士(1978 お茶の水女子大学)／人文科学修士(1993 お茶の水女子大学)
専門分野： 日本語教育、日本語学
URL： <http://jsl2.li.ocha.ac.jp/kyookanHP/sasa.html> ／ <http://yasukosasaki.jp/>
E-mail： sasaki.yasuko@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

コミュニケーション／談話分析／会話分析／相互行為／多人数会話

◆主要業績

総数 (7) 件

- ・佐々木泰子 (研究代表者) (2009.3) 多文化共生社会における幼児から大学生までのコミュニケーション能力育成モデルの開発 平成 18 ～ 20 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書 全 325 ページ
- ・佐々木泰子 (2008.5) 「談話分析の日本語教育への応用の可能性」台湾大学 (台湾・台北) (『2008 年台大日本語文創新国際学術研究会論文集』 29-42)
- ・佐々木泰子 (2008.7) 「接触場面における体験談の終結部に関する一考察ー評価表現とあいづちに着目してー」日本語教育国際研究大会 釜山外国語大学 (韓国・釜山)
- ・佐々木泰子 (共) (2008.9) 「破格文から見たスピーチの発話の特徴」社会言語科学会第 22 回大会, 愛知大学 (愛知県・豊橋市) (『社会言語科学会第 22 回発表論文集』, 102-105)
- ・佐々木泰子 (共) (2009.3) 「留学生の話し合い場面に見られる文末表現の特徴」Association of Teachers of Japanese Seminar (USA・Chicago)

◆研究内容 / Research Pursuits

従来、「言語と文化とコミュニケーションの関わり」を研究課題としているが、2008 年度もそうした研究を進めるとともに、その成果を報告書、学会発表などによって公開した。2008 年度における重要な仕事には、附属学校園との連携による日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 B) の「多文化社会における幼児から大学生までのコミュニケーション能力育成モデルの開発」プロジェクトがある。2008 年度は 3 年間にわたるこの研究の最終年度にあたり、報告書をまとめた。その成果を台湾における講演や釜山の日本語教育学会世界大会などにおいて、広く公開した。

My current research is primarily concerned with the disciplines of discourse analysis. I am concerned to explain the characteristics of the Japanese written and spoken discourses.

In the academic year 2005, the main focus of attention of my research was set on the interaction of individuals in the experimental multi-participants' discussion situations in order to analyze how they negotiate and reach an agreement.

◆教育内容 / Educational Pursuits

【学部】

留学生を対象とした授業では、新聞記事を取り上げ、現在の日本に関する知識を得るとともに、多様なメディアの文章を批判的に読む力の習得をめざした。また日本語日本文化研修留学生を対象とするクラスでは、1年間の研修のまとめとして修了レポートを書くという課題をプロジェクトワークを通して達成する。

日本語教育基礎コースの授業では、将来日本語教師を目指す学生を対象に、日本語を母語とする人と日本語を母語としない人のより良いコミュニケーション場面をデザインする方法について実践を通して学ぶ。

【大学院】

大学院生を対象としたクラスでは、談話分析・会話分析について実際にデータの収集・記述を通して学びつつ、文献講読を通して談話分析・会話分析への理解を深める。指導学生のテーマは例えば、会話における話題転換の中日対照研究や発話の分りにくさについての研究など。2008年3月、1名が学位を取得した。

In the undergraduate program, I taught a Japanese language classes for foreign students and a teachers' training course of Japanese as a second language. My classes were designed to develop the ability of the interaction with multicultural participants.

In the graduate program, I taught the methodology of discourse analysis and conversation analysis. Based on the alternative methods, students were asked to describe their interactions with their friends and neighbors and to investigate how people negotiate and reach an agreement.

◆研究計画

同一文化内のコミュニケーションだけでなく異文化間のコミュニケーションの実態を明らかにすることを通して、多文化共生社会に資するコミュニケーションのあり方についての考察を行う。対象を2者間の会話のみでなく今後ますます社会的要請が期待される多人数による会話において合意の形成がどのように行われるのかについて、同文化間、異文化間、それぞれの特徴を明らかにし、その成果を幼児から大学生までのコミュニケーション能力の発達モデルの開発、大学での学習を支える日本語表現能力育成カリキュラムの開発に反映することを目指す。

◆メッセージ

日本社会の多文化化に伴い、私達はコミュニケーションスタイルの異なる人たちとコミュニケーションをする機会が今後ますます増えていくことが予想されます。そのような社会にあって言語の果たす役割はこれまで以上に重要になると言えるでしょう。

また私たちのコミュニケーションには対面の会話だけではなく、電話による会話、携帯メールやインターネットを媒介としたチャットなど様々な手段が考えられます。皆さん自身や周りの人たちの言語行動を分析することを通して、言語を用いて私たちはどのようにコミュニケーションを成し遂げているのか、それらは文化背景の違いによって異なるのかなどについて一緒に考えてみませんか。